

ゼロは2002年10月より、『公開』を建築コンセプトに掲げています。

ゼロは厳しい視線を持つユーザーに対し、「公開」というコンセプトで建築の過程を明確にする施策を早くから採り入れています。

建築業者自ら適切な情報を開示し、消費者の皆様にも広く建築知識を持っていただくことが、これから家を建てようとする方や購入を予定されている方、建築後や購入後に不安を感じておられる方によりよい暮らしを実現していただくための必要不可欠な条件であると考えられています。

ゼロの「公開」の前では建築工程は明日であり、関係者であれば誰もが建築詳細を確認できます。また、建築内容を理解していただくための様々なツールを用意し、どのようなチェックがなされても納得のいく家づくりを目指しています。

そして、お客様からのクレームの記録についても社内データをそのままHPに掲載し、お引渡し後のメンテナンス状況をご確認いただいております。

重大なクレームを0にするため、ゼロは厳しい検証と改善を行っています。

ゼロは、様々な場面で「雨漏り（雨水の浸入）0」の記録をご紹介します。しかし、この記録は一朝一夕の技術でなされたものではありません。ゼロは、お客様からの施工上の問題に対するクレームに対し、常に真摯に向き合い、これまで何十回もの検証と改善を重ねてきました。高度な技術が必要とし、施工上のトラブルが多いとされる「建築会社様、まちなかタイプ」の木造一戸建住宅の建築において、雨水の浸入0軒連続記録が1000件を突破したのもこれらの検証と改善があったからこそ記録なのです。ここに、雨漏り検証の一例を詳しくご紹介します。ゼロの品質へのこだわりなきごたわりの一部始終の記録です。

2007年1月発生雨漏り事例に対する検証の全記録

1月14日(日) お客様からのご連絡
年末の雨で、サッシの上から雨のしずくが落ちたとの報告を受けます。

1月16日(火) 第一回水掛け検証
サイディング（外壁材）の上から縦ラインで水掛けを実施し、雨漏りの検証をおこなう。
長時間の水掛けを実施したところ、1時間後にサッシ上部の鴨居より浸水（水滴）を確認（写真①）。

1月30日(火) 第二回水掛け検証
サイディングの上から再度水掛けを実施。結果、浸水を確認。サッシ接合部分の問題となっている可能性がある。と判断し、まずはその可能性に沿った処置をする。ことに。
問題箇所（サッシ）の上部のバテを詰め、再度水掛け検証をおこなった結果、浸水確認されず、しばらく自然の状況で様子を見ることになる。次の水掛けテストまで浸水なし。

3月16日(金) 第三回水掛け検証
最初に前回のバテを外し、サイディングの上から水掛けを実施した（写真②）結果、再度浸水が確認されたため、原因はほぼ前回の推測の通りと判断する。
さらに原因確定のため、サイディングを外し、サッシの接合部にバテを壊す（写真③）。しかし、ここまでは浸水が起るかを検証（写真④）。しかし、ここまでは浸水確認されず、サッシ接合部分の原因ではなかったと判断。原因の特定が難しくなる。

新たな原因調査のため、今度は壁をめくり、防水シートを露出させた状態で水掛け検証を実施（写真④）。その結果、再度浸水が確認されたため、シートのシワから水を吸い上げたことによる浸水の可能性ありと判断を下す。
問題箇所（シート）のサイディングを丁寧に補修し、水掛け検証をおこなった結果、浸水確認されず、しばらく自然の状況で様子を見てみることにする。

4月1日(日) お客様に電話で状況を確認
「サッシの下レールが少し濡れているが、窓を開けていたからかもしれない。」との返事。しばらく様子を見ることにする。

4月9日(月) 工事課ミーティング
経緯、今後の動きについて報告。検証をおこなう。施工準備による雨漏りと社内確定。
雨漏り1軒・ハウスの公表のため、経緯、原因、検証記録の調整、まとめに入る。

4月19日(木) 第五回水掛け検証
サイディングの上から水掛け実施。サッシ回りに限定せず、サッシ最上部から水掛けを実施（写真⑤）。結果、約1時間後に浸水を確認（写真⑥）。シート以外の原因があると判断。原因の特定が再度振り出しに戻る。
原因究明のため、シャッターボックスと裏板をはずし、再度水掛け検証を実施。これにより浸水部分の場所を特定（写真⑦）。サイディングの目地から浸入した水が、中間横断部分で滞留し、同部分のクギ穴から浸水した可能性があると新たに判明する。



株式会社ゼロ・コーポレーション

ゼロの品質報告書

ゼロは建築業者の皆様へ、『公開』を提案いたします。

ゼロクレーム公開

検索



4月23日(月) 工事課ミーティング
5月14日(月) 工事課ミーティング
経緯、今後の動きについて報告。検証を行う。検証により、施工手順マニュアルは、メーカーの指示・指定どおり実施しており、技術的な不備はなかったことを確認する。各メーカーに状況報告の上、次回検証時の立会いを要請することに決定。

5月15日(火) 第六回水掛け検証
各メーカー立会いのもと、最初にサイディングの上から縦ラインに水掛けを実施（写真⑧）。浸水を確認する。また、外したサイディングの裏面（写真⑨）および鴨居を外した梁（写真⑩）に水の滞留の痕跡が明確に残されていた。

問題部分の横断線を縦断線施工に変更し（写真⑪）、水の滞留がない状態にした上で、再度シートの上から水掛けを実施したところ、浸水確認されず。さらにサイディングを復旧させて水掛けを実施（写真⑫）したところ、やはり浸水は確認されず、この時点で2階梁部分における横断線のクギ穴からの浸水が原因と断定する。

5月17日(木) 関係者に検証会
今回の施工は日本建築外装材協会が指示・指定する施工マニュアルの通り、ゼロ側には技術的にミスと呼べる要因はないという結果で、各社同意する。

各サイディングメーカーおよび日本建築外装材協会に施工マニュアルの改善提案およびゼロの施工マニュアルを先行して改訂する。

並行して、各防水シートメーカーに、当初懸念したシートからの浸水の可能性についても検証を依頼。

その後
検証および補修後の状態について、お客様に電話確認。7月7日現在、浸水は確認されないと報告を受ける。

また、今回の現場担当のサイディングメーカーから、サイディングの施工マニュアルを当社提案の内容に改訂するとの連絡を受ける。

さらに防水シートメーカーからは、検証の結果、シートの水の吸い上げによる浸水の可能性を否定する旨の返答があった。

社会に求められるカタチは、ゼロの姿勢そのもの
2005年11月に発覚した構造計算書偽装事件（姉小事件）を契機に、こうした問題の再発を防止するため、昨年の通常国会および臨時国会において、建築基準法・建築士法等が改正されました。このうち、建築確認・検査の厳格化、民間確認検査機関に対する指導監督の強化、建築士等に対する罰則の強化など、一部の改正事項については今年6月20日から施行しております。この改正により淘汰される建築業者も多いと予想される中で、ゼロは以前より、今回の改正事項に沿った建築システムを導入しており、その対応は速やかにかつ問題なく移行しました。「公開」をコンセプトとし、お客様がいつ何時どこでもご覧になろうと恥ずかしくない現場づくり、品質づくりを、お客様のチェックの目に対して常に真摯な態度で、お客様に選んでいただける会社づくりを実現しようとして、これまでと社会に求められるカタチへと導かれていた。これが、建築基準法の改正に何ら動揺することなく、ゼロの正しい姿勢です。

『公開』をスタンダードに
このような社会の流れを背景に、「公開」のコンセプトは、本来、ゼロのオリジナリティとされるべきものではなく、全住宅メーカーおよび全建築業者に課せられるべき義務である。ゼロは考えています。住宅といふ人生に大きく関わるものだからこそ、お客様には、嘘のないリアルな建築の現場を自分の目で確かめ、つくり手の意識や姿勢、クレームを含めた品質のレベルと実績をきちんと確認し、間違いない本に良いものを選んでいただきたい。そのために何が必要なのかを、業界全体で真摯に考え、取り組みなければならぬ時期がきているのではないのでしょうか。

『公開』をスタンダードに
お客様は、信頼を大切に育て、ゼロの心からの願いです。

『公開』をスタンダードに
お客様は、信頼を大切に育て、ゼロの心からの願いです。

より詳しい内容は弊社ホームページにて「公開」しております。 <http://www.zero-corp.co.jp/>

屋根・外壁・窓枠等からの雨水の浸入・雨漏りを完全シャットアウト！

雨水の浸入

0軒/1010軒中
(44ヶ月連続) 2007年7月17日現在

1000軒突破!!
只今記録更新中!!

記録のカウント対象について
雨漏り撲滅対策を本格的に始めた2003年11月以降の施工で、かつ、カウント時点までに決済が終了している弊社標準施工による建物を対象としております。なお、メーカー責任による場合を含みません。